

3.7 令和6年度 リサーチ・クラークシップ成果発表会を開催しました

医学科 2 年生を対象に、学内の研究室及び学外の大学・研究機関で研究室配属実習を行う「リサーチ・クラークシップ」を 1 月 6 日（月）～3 月 7 日（金）の約 9 週間実施しました。本科目は、学生自ら直接専門領域の研究内容に触れ、さらには高度な実験科学の進め方を実際に体得することによって、研究活動の意義及びそれを支える研究者の心を理解して research mind を培うことを目的としたプログラムです。今年度は、海外 1 機関、国内 21 機関及び学内 45 教室等で実施しました。また、最終日の 3 月 7 日（金）には、成果発表会を 10 班に分かれて 対面及び Web のハイブリッド形式で開催し、約 9 週間の実習成果の発表を行いました。



成果発表会 優秀賞受賞者の表彰式

私は今回のリサーチ・クラークシップで呼吸器内科学教室の室繁郎教授のご紹介により、京都大学 iPS 細胞研究所の後藤研究室にてヒト iPS 細胞由来の肺臓オルガノイドを用いた家族性間質性肺炎の疾患モデリングとその解析に取り組みました。

最初は研究に関する知識や経験は皆無であったため、成果を出す難しさとその過程の長さを痛感しました。しかし、自分の実験により明確な結果が得られた際には大きな達成感を感じ、それが新たな疑問へと繋がるという研究の奥深さを実感することが出来ました。以前より自分の将来のキャリアについて考えていましたが、研究室の方々とのお話を通して医師としての働き方には自分の想像していた以上に多様な選択肢があることを知ることが出来ました。

最後に、今回のリサーチ・クラークシップ期間中にお世話になった室教授、後藤研究室の皆様へ心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

（後列左から 2 番目 吉田 倫太郎さん）

今回のリサーチ・クラークシップでは、教育開発センターの若月教授のご紹介で、早稲田大学先進理工学部生命医科学科大島研究室において、「マウスの 1 週間 Cuprizone 暴露における CRMP4 欠損の影響」というテーマで研究に取り組みました。

研究についての知識や経験が全く無かったため不安な気持ちが大きかったのですが、大島教授をはじめ先輩方が親切に教えてくださり、様々な手技や解析方法などを勉強させていただきました。難しかったのですが、一人で実験をして結果が出た時には達成感がありました。また、先輩方の姿から学ぶことも多く、とても良い刺激をもらいました。今回の経験を通して、医学の発展には研究が欠かせないものであることを実感し、より研究に興味を持つことができました。

（後列左から 5 番目 寺田 美咲さん）

この度、リサーチ・クラークシップにて血栓止血先端医学講座の辰巳先生、三谷先生のもとで「アセトアミノフェン誘発急性肝炎モデルにおける血小板の関与」について研究させていただきました。

本研究を行うにあたり何の経験もない状態でしたが、先生方の非常に丁寧な指導があったおかげでマウスへの薬剤の投与など、様々な研究の所作を学ばさせていただきました。仮説通りの結果が得られないときもありましたが、それをまた次の研究に活かすといった、医学研究のあり方の一端を知ることでもできたと感じました。元々、臨床医を志していましたが研究に興味も湧き、これからのキャリアにおいてこの経験は非常に大きなものになると思います。

最後になりますが、改めて本研究中お世話になりました研究室の先生方に厚く感謝申し上げます。ありがとうございました。

（前列右端 津本 勇貴さん）

本年度のリサーチ・クラークシップは、学内 45 教室、学外（国内）21 機関、学外（海外）1 機関のご協力のもとに、無事に終了することができました。コロナ禍でオンライン開催が続いていた発表会を対面で開催し、Zoom も併用することで、学外でのご指導いただいた先生方にもご視聴いただきました。対面開催とすることで、発表会の合間に、リサーチ・クラークシップでの経験や成果を学生同士が直接話している様子も見受けられ、アカデミックな探究心の醸成という本科目の目標を、若干なりとも達成できた感触を持ちました。これもひとえに、諸先生方のご指導あってのことであり、厚く感謝申し上げます。今後とも、どうぞよろしくお願いいたします。

（科目責任者 堀江基礎教育部長）